

勇婦を祀る荒人神社

馬城内の丘の上にあつた芳作館主高橋丹波守敗死後、一族殆んど四散した中にその後裔といわれた翁媪のカップルが住んでおりました。ある日のこと、翁は狩猟のため外出し、媪は昼飯の用意をしておりました。その時です。一匹の大熊が口をあいてはいつてきたのは。媪は切り板を熊に投げすて熊がひるむところを、用心の錆び槍で一突に刺し殺しました。

ふたりは、大熊が後々崇ることをおそれ、近所の丘陵に葬り、柵の木を印にうえたうえ、熊野大明神という神さまとして祀りました。この武勇伝が遠近に伝わり、いつも人びとの話題にのびりました。

そのうちにこの媪も天寿を全うして世をおわりました。遺体は熊野明神とあまり離れないところに葬りました。ところがある時里びとらは、この媪の夢じらせをうけました。『われを荒人として神に祀れ。さすれば産婦のこゝを見守るべし。』というのでございました。人びとは、その通りにいたしました。

今でも時折、参詣する産婦をみうけることがございます。